

協働のまちづくり
「コミュニティ再生講座」

報告書

平成23年12月

CTCきたみ中央まちづくり会

目次

はじめに

第1章 協働のまちづくり「コミュニティ再生講座」の概要 ……………1

第2章 講座の実施状況 ……………1

第3章 本講座を終え、明日に向かって ……………4

1、本講座を終え、浮かび上がった課題

2、明日に向かって、私たちが企画・実施すること

3、明日に向かって、私たちからの提言

報告書に寄せて

CTCきたみ中央まちづくり会について

資料編

コミュニティ再生講座 配付資料

第1回

第2回

第3回

プレス関係資料

アンケート集計

はじめに

今年春も間もない 3 月 11 日に東日本を襲った大地震と大津波は、私たち日本人の忘れていた心の絆を深く結び付けるほど不幸で甚大な被害をもたらしました。この期を失することなく地域コミュニティの再生に向けて、いっそうの努力を惜しまず取り組むべき時ととらえ、財団法人北海道地域活動振興協会の助成を受けて計 3 回の講座を開催しました。

北見市においても開催の主旨をご理解下さり、後援を戴きまして厚くお礼を申し上げます。

開催の成果として第一に、これを機に 3 地区の住民協働組織同士の信頼関係が醸成され、今後の地域活動の連携がよりスムーズに取れるようになったこと。

第二に、町内会が衰退し続ける中で住民協働組織の必要性を実感し、新たに設立に向けて動き出すインセンティブを創り出したことです。

この講座により市民が主体のまちづくりを推進させるきっかけとなり、行政とコミュニティのあり方を考えることにつながるとしたら、樽見教授・振興協会・北見市・青年会議所・北海道新聞社・コミュニティ FM らによる協働がもたらした果実と言えます。

コミュニティ再生講座では、「協働のまちづくりの現状と課題」「市民自治とは、協働や地域活動を考える」さらに「住民協働組織の必要性を考える」のテーマに沿ってフォーラム形式で話し合いを進めました。その中で浮かび上がった課題やこれからすべき事を踏まえて、いくつかの提言をさせて頂きましたのでお役立て下されば幸いです。

また回答のあった別紙アンケート結果では、殆どの市民が協働の仕組みを理解され、住民協働組織と市民テーブルが必要で今後も住民自治を進めるべきとしております。

別添事例にありますように『市民と行政と議会』で素晴らしい仕組みを創って全市的な取り組みをしている自治体もあります。

北見市では、独自の自治区制を補完する意味でも北見自治区内の小学校区域を基礎とするコミュニティ自治区すなわち住民協働組織の仕組みをより充実させる必要があります。

そして近い将来、「住みやすさ NO1 のまち北見」と評価されるよう、私たち市民側もその実現に向けて努力すべきと考えております。

最後に 3 回にわたり遠路札幌から通われ示唆に富んだトークを頂いた樽見教授に対し、心より感謝の意を表したいと思います。

北見市には引き続き市民参加のまちづくり、住民自治を進めるべく支援策を切望しまして終わりいたします。

平成 23 年 12 月

CTC きたみ中央まちづくり会
会長 中川 篤嘉

第1章 協働のまちづくり「コミュニティ再生講座」の概要

■開催理由

「協働のまちづくり」を推進するには、地域に暮らす住民自らが地域の課題を見つけ出し、立場の違う人たちとも連携して問題を解決する能力を高め、また地域に眠っている人材や地域資源を活用した新たな取り組みを考えなければなりません。そして行政と連携して、「北見タウン・ネットワーク懇話会」の提言に基づき「協働のまちづくり」を更に推進しなければならないと考え、「コミュニティ再生講座」を立ち上げました。

■事業主体

主催 CTCきたみ中央まちづくり会
財団法人 北海道地域活動振興協会
後援 北見市

■助成事業

本プロジェクトは、上記協会の平成23年度コミュニティ再生講座の共催団体として助成を受けて実施しました。

第2章 講座の実施状況

第1回コミュニティ再生講座

『トーク&フォーラム「協働のまちづくり」の現状と課題』

日時 平成23年9月24日(土) 午後2時～4時30分

場所 北見芸術文化ホール(大練習室)

前半は北海学園大学 法学部 学部長の樽見先生が「まちはつくられる～まちヂカラの再発見～」をテーマに話されました。

後半は市民協働推進課成田課長、相内ひだまり会阿部会長、美山ふれあい会中村会長、上ところさくら会佐藤会長、北見青年会議所下元理事長、タウンネットワーク懇話会中島副座長がパネリストとなり、協働のまちづくりの現状と課題について話し合いが行われました。その後、会場の皆さんと更に市民協働組織の事など話し合いました。



第2回コミュニティ再生講座

『ディスカッション「市民自治」とは、そして「協働や地域活動」を考える』

日時 平成23年10月29日(土) 午後2時～4時30分

場所 北見芸術文化ホール(多目的室)

前半は北海学園大学 法学部 学部長の樽見先生のトークと3地区の住民協働組織の会長からその活動の体験を発表して頂きました。

後半は企画課山田課長から『まちづくりのルールブック「北見市まちづくり基本条例」』の説明と、会場の皆さんと今日のテーマについて話し合いました。



第3回コミュニティ再生講座

『フォーラム「住民協働組織の必要性を考える」』

日時 平成23年12月3日(土) 午後6時～8時

場所 北見芸術文化ホール(大練習室)

前半は北海学園大学 法学部 学部長の樽見先生のトークのあと、高栄小学区で協働組織の設立を進める高栄幼稚園不破園長にこれまでの経緯と今の思いを語って頂きました。

後半は中川会長から協働組織の必要性や北見テーブルの提案など講座のまとめをしてから今日のテーマについて話し合いが行われました。



講座全体

- 受講した方は延べ人数106名、年齢層は20代から80代までの幅広い年代です。
- 講座に参加を戴いた皆さんは、市民・連合町内会・町内会・住民協働組織・NPO・北見青年会議所・市議会議員・北見市副市長・市職員、報道機関(北海道新聞社(記者)、コミュニティFM(収録))、大学教授、協会(企画課長)となっています。
- 既存の協働組織代表がパネリストと体験発表者としてご協力頂いたので具体的な活動状況を耳にすることが出来ました。また話し合いの中でも常に発言をされ話し合いをリードして頂きました。
パネリストとして青年会議所から参加頂いたことで、わがまちに情熱を持った若い世代と協働するまちづくりを今後期待するところです。
- 最終回に設立準備する高栄小学区のお話しも大変興味深く、これから設立を目指す市民の関心を集めました。

○講座の詳細については巻末の配付資料のレジュメなどをご覧ください。

第3章 本講座を終え、明日に向かって

1、本講座を終え、浮かび上がった課題

(1) 住民協働組織への市民の認識が低い

「協働のまちづくり」の入り口は人のむすびつきを強めて「地域の課題はみんなで考え、住民自ら解決する。自分たちが出来ることは、自分たちの手で行う。」というコンセプトを市民に理解してもらうことです。

そのコンセプトを実際に行う場が「住民協働組織」と考えます。

今回の講座に参加した人の感想は、参加するまで、「協働のまちづくり」を知らなかった、参加して知ることが出来てよかったという方が大勢でした。

参加した方は意識の高い方です、一般の市民の「協働のまちづくり」への意識は非常に低いと思われます。

市民が身を切り、市民に意識改革をお願いするわけですから、時間が掛かります、長期的な戦略が必要になります。

(2) 新しい住民協働組織の設立の進捗がおそい

住民協働組織は市の周辺部のまとまりのある地区の立ち上げが一巡し、あまりまとまりの良くない街の中心部組織の立ち上げに移って来ました。

街の中心部は都市化が進み、ひとつのつながりがうすく、町内会活動も形骸化しており、大きな障害が横たわっています。市の担当課も熱心に取り組んでいますがその進捗度は遅く感じられます。

新たな発想のもとで、市民と行政が協働でその解決の糸口を見つける取り組みが必要になります。

2、明日に向かって、私たちが企画・実施すること

(1) 住民協働組織についての市民への広報活動

人のむすびつきを強めて「地域の課題はみんなで考え、住民自ら解決する。自分たちが出来ることは、自分たちの手で行う。」という「協働のまちづくり」のコンセプトを市民に訴える事業を進めます。

今回の講座を反省して、講演会、ワークショップ、各種イベント・おまつり、などを企画して広報活動を行います。

また既設の住民協働組織を褒め称えるイベントなどで市民へのPRを行います。

(2) 住民協働組織を新たに立ち上げる支援活動

現在、立ち上がっている住民協働組織の協力を戴き、これから立ち上げる地区を対象に支援活動を行います。

具体的には体験発表や助言をするワークショップなどを開催します。

(3) 現在活動している住民協働組織への支援活動

立ち上がっている住民協働組織の横の連携を強化するために、連絡会議の開催や組織間の情報共有などを考えています。

また住民協働組織が自己財源を確保する仕組みを創設することを組織の皆さんと考えます。

(4) 仲人会議「北見テーブル」の具体化への助言

仲人会議「北見テーブル」の仕組みのグランドデザイン、事務局機能のあり方、構成メンバー、会議の運営などを研究します。

北見テーブルを試験的に運用するイベントを行い、上記の事柄を検証し、その結果をまとめます。

3、明日に向かって、私たちからの提言

(1) 住民協働組織への交付金のあり方の再考

現行の交付金は小学校区全体が立ち上がることを前提にしています。

街なかの小学校区は人口も多く、広範囲です。

最初から全体の組織を立ち上げるではなく、となり近所の町内会が複数で立ち上げ、それが2から4個ほど集まってブドウの房（クラスター）のようになり最終的に一つの小学校区の住民協働組織が出来上がるイメージを考えています。

その最初のブドウの一房にも交付金が配分されるような制度を再構築して欲しいのです。

(2) 住民協働組織の活動拠点の整備

「協働のまちづくり」は人を結びつけることから始まります。それには、それを実施する空間が必要になります。住民協働組織の活動の場であり、年齢に関係なく誰もが気軽に立ち寄れるものでなければなりません。

施設の整備には多くの予算を必要とします。年次的計画や空き店舗・市内の空き屋などを含めて、その整備をお願い致します。

(3) 仲人会議「北見テーブル」の制度設計

平成19年3月、北見市タウン・ネットワーク懇話会が「協働のまち北見」最終報告書の中で「新しい協働の仕組み」づくりで仲人会議「北見テーブル」について提言をしています。

あの提言から5年の月日が経ちました。提言の実施に向けて、是非、制度設計に着手をして戴きたいのです。

その設計に必要な情報を私たちも研究、実証実験をして発信できるように努力を致します。

報告書に寄せて

北見通いをはじめ十分な年月が経つ。他でもなく、そのきっかけをつくっていただいたのが17年8月にスタートした「北見タウンネットワーク懇話会」である。以来、CTCきたみ中央まちづくり会の中川代表らや、北見市職員をはじめとした多くのみなさんと親しくお付き合いをいただいている。北見に舞い戻るたび、その知己を本当に有り難いと思う。

「懇話会」で一貫して議論されたのは——そして、そのテーマは本会に通底しているのであるが——地縁の復権である。会議にアドバイザーとして関わった僕は、しかし、それだけでは（地縁の復権だけでは）北見を含めた全国の自治体が抱えている問題の大方は解決出来ない、と考えた。自治の応援者として、そこに厳然と住まっている人だけを仰ぐのではもう限界がある、という思いが、実は今もある。だから、会の趣旨もわきまえず、地縁だけでは駄目だ、地縁だけでは駄目だ、と繰り返してきた。

もちろん北見の魅力発見の主役はそこに住まい、そこで子供を育て、そこで老いていく方々、すなわち地縁の人々に違いはないが、右肩上がりの人口増が望めない以上、いわば非地縁の人々である「心の北見市民」をも増やしていくことこそが大事だ、との思いからである。

いまでもその考えに大きなブレはないが、しかし、どっこい「地縁も大事だ」と考えさせられることの多い2011年ではあった。殊更にそう思ったのは、他でもなく3月の大地震、大津波、そしてフクシマの重大事故のせいである。一瞬にしてまちが消えてなくなったとき、まちを再興するに一番必要なのはそこに住まい続けることを決意した人々同士の強い紐帯、すなわち揺るぎない絆である。問題は、しかし、どうやって人と人との紐帯を実際のちからに換えていけるのか、であろう。

北見にも、もちろん、他地域に負けない「まちぢから」としての地縁力がある。そして、その地縁力を住みよいまち・北見につなげる仕組みづくりに換えていくことに腐心する人々（一般市民やNPO関係者や行政職員…）がいる。

中川会長は、どこか生真面目過ぎるきらいがあるから、計画の進捗がはかばかしくない、とお焦りの様子が見てとれてお気の毒だが、しかし、北見タウンネットワーク懇話会が提案したことが、ちょっと目を離れたすきに何と5つも6つもの実践事例として積み上がっていたとは……。久しぶりに北見に呼んでいただいた身には、（途半ばということより）むしろそのことの方が驚きであった。

地域の絆はある、絆をちからに換えるにアイデアと工夫もある。あとは、人々の参加、加えて、行政の本気度だろう。「言いだしっぺ」の一人として、これからの変化や発展から当分は目を離せそうにない。

平成23年12月

協働のまちづくり「コミュニティ再生講座」アドバイザー

北海学園大学 法学部 部長 樽見 弘紀

CTCきたみ中央まちづくり会について

- 名称 CTCきたみ中央まちづくり会
- 所在地 北見市北進町5丁目7番38号
電話 0157-57-3023 Fax 0157-57-3006
- 役員
 会長 中川 篤嘉
 事務局長 逢坂 信治

■ 役員のプロフィール

- 会長
商号 行政書士中川篤嘉事務所
代表 中川篤嘉
本店所在地 〒090-0052 北見市北進町5丁目7番38号
電話 0157-57-3023
経歴
1972年09月 北靴販売株式会社入社
1978年11月 有限会社コネチ靴店入社
1983年04月 東京海上火災保険株式会社北見支社入社
1985年04月 行政書士事務所開業
1997年12月 有限会社アンオフィス設立
1998年06月 中央地域まちづくり協議会会長（都市計画マスタープラン中央地域構想）
1998年12月 中央地域の明日を楽しくする会（CTC）会長
2005年07月 北見市タウンネットワーク懇話会 座長
2006年05月 北見市広報・広聴モニター 委員
2006年06月 北見市まちづくり協議会 副会長
2007年06月 北見市総合計画審議会住民自治部会長
2008年08月 北見市都市計画マスタープラン策定委員会 副委員長
- 事務局長
商号 アイティデザイン研究所
代表 逢坂 信治
本店所在地 〒090-0022 北見市北2条東2丁目6番の1 サンライズ北二条 66号
電話 0157-31-2854
経歴
1958年04月 株式会社 林屋入社 本店販売課
1983年05月 取締役ホテル事業部長支配人（網走セントラルホテル）
1991年03月 常務取締役北見支店長
1997年08月 同社を退社
1999年12月 アイティデザイン研究所 設立 代表に就任
2005年07月 北見市タウンネットワーク懇話会 世話役 副座長
2006年05月 北見市 広報・広聴モニター
2007年06月 （仮称）まちづくり条例検討市民会議 委員 副座長
2008年05月 北見市IT推進計画策定委員会 委員 委員長代理
2010年01月 北見赤十字病院の明日を考え支援する会 会員 副代表
2010年04月 CTCきたみ中央まちづくり会 事務局長

資料編

コミュニティ再生講座 配付資料

第1回

- ・第1回案内チラシ
- ・第1回レジユメ
- ・イントロダクション「協働のまちづくり、そのはじまりと流れ」の説明資料
- ・北見自治区住民協働組織パンツレット

第2回

- ・第2回案内チラシ
- ・第2回レジユメ
- ・相内ひだまり会 発表資料
- ・美山小学校区ふれあい会 発表資料
- ・上ところさくら会 会報 発表資料
- ・まちづくりのルールブック・「北見市まちづくり基本条例」について レジユメ
- ・北見市まちづくり基本条例パンフレット
- ・コミュニティ再生講座・資料

第3回

- ・第3回案内チラシ
- ・第3回レジユメ
- ・第3回再生講座・資料
- ・コミュニティ再生講座資料「協働のまち」
- ・不破さんの説明資料
- ・新しいコミュニティのかたち アクションプラン 概要編 大野城市
- ・CTCきたみ中央まちづくり会 Q&A

プレス関係資料

アンケート集計